上田市文化財調査報告書第８５集

市内遺跡

平成１２年度市内遺跡発掘調査報告書

２００１．３

上　田　市

上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第８５集

市　内　遺　跡

平成１２年度市内遺跡発掘調査報告書

２００１．３

上　　田　　市

上田市教育委員会

例　言

1　本書は、長野県上田市における各種開発事業に伴う平成１２年度市内遺跡発掘調査報告書である。

2　調査は国庫補助事業・県費補助事業として、上田市（上田市教育委員会事務局生涯学習課）が実施した。

3　現地調査は上田市教育委員会事務局職員があたり、各調査ごとにその氏名を記した。

4　現地調査には主としてバックホーによるトレンチ調査で行った。バックホーの賃貸借・運転については、竹内和好が行った。

5　本調査に係る資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管している。

6　本調査にあたり、開発施工主・担当課には調査実施にかかる調整等、格段の御協力をいただいた。記して感謝する。

7　本調査に係る事務局の体制は、以下のとおりである。

教育長	我妻　忠夫
教育次長	内藤　政則
生涯学習課長	塩野崎利英
文化財係長	細川　修
文化財係	平林裕蔵　中沢徳士　塩崎幸夫　久保田敦子　小笠原正

8　本書に係る作業は、以下のとおりの体制で行った。

現地調査	中沢、久保田、小笠原、古野明子、須斉智恵子、池田育子、塩川美代子、塩沢むつき、上原信治、滝沢七郎、柳沢仁美、山浦光
遺構遺物写真	中沢、久保田、小笠原、古野
遺物整理作業	大塚夏江、上原祐子、中沢靖子、佐藤弘子
執筆・編集	中沢、久保田、小笠原

目　次

例言

目次

平成12年度試掘調査地点位置図 …… 1

常入遺跡群（共同住宅建設） …… 3

染屋台条里水田跡遺跡（1）（共同住宅建設） …… 5

国分寺周辺遺跡群（国分・ふれあい（仮称）国分新駅駅前広場整備事業） …… 8

史跡信濃国分寺跡（八日堂境内） ……14

比丘尼遺跡（長野県営住宅建替） ……21

史跡信濃国分寺跡（個人住宅建設） ……23

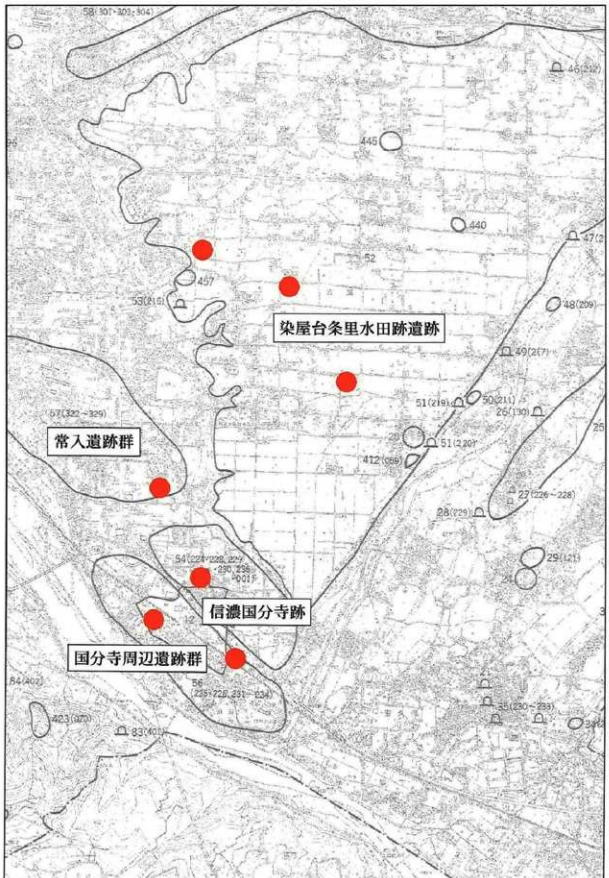
染屋台条里水田跡遺跡（2）（共同住宅建設） ……40

染屋台条里水田跡遺跡（3）（共同住宅建設） ……43

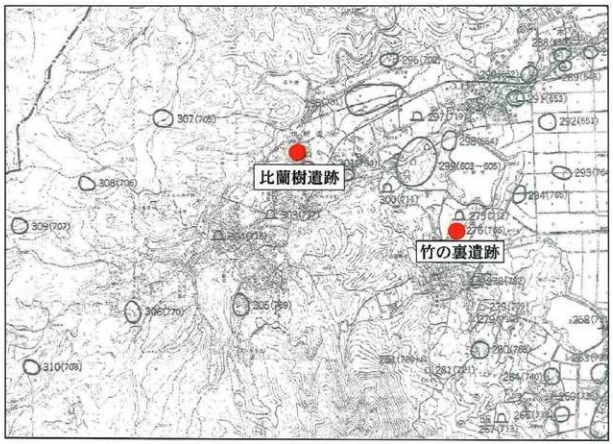
木の下遺跡（共同住宅建設） ……46

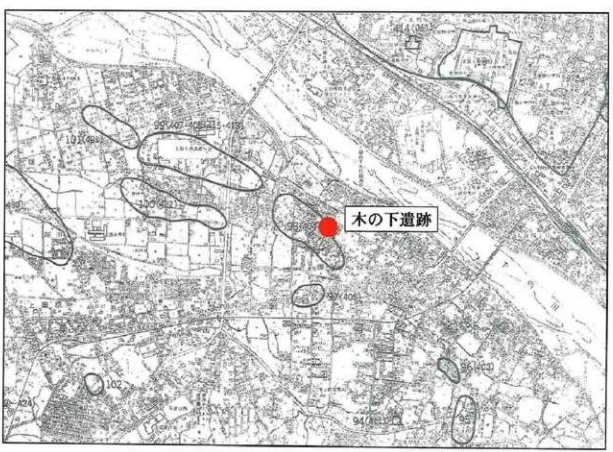
竹の裏遺跡（耕作地整備） ……48

調査報告書抄録



平成12年度試掘調査地点位置図





平成12年度試掘調査地点位置図

常入遺跡群

1　調　査　地　上田市常入一丁目
2　原　　因　共同住宅建設
3　開発面積　962 ㎡
4　調　査　日　平成12年4月3日
5　調査方法　幅約1mのトレンチを3本入れる。
6　調査担当者　小笠原 正

遺跡の位置と経過

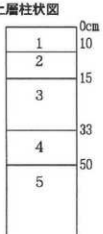
常入遺跡群は、信州大学繊維学部の敷地から常田池南方にかけての広範囲にわたる遺跡である。一帯では以前から弥生時代後期から平安時代にわたる遺物が出土しており、信州大学繊維学部構内では平成8年･11年の調査によって40棟の竪穴住居跡と共に多量の箱清水式土器が発見されている。今回の試掘調査地点は本遺跡群の南端にあたる。

平成12年2月に事業主から共同住宅建設を行うとの連絡があったため、試掘調査を実施した。

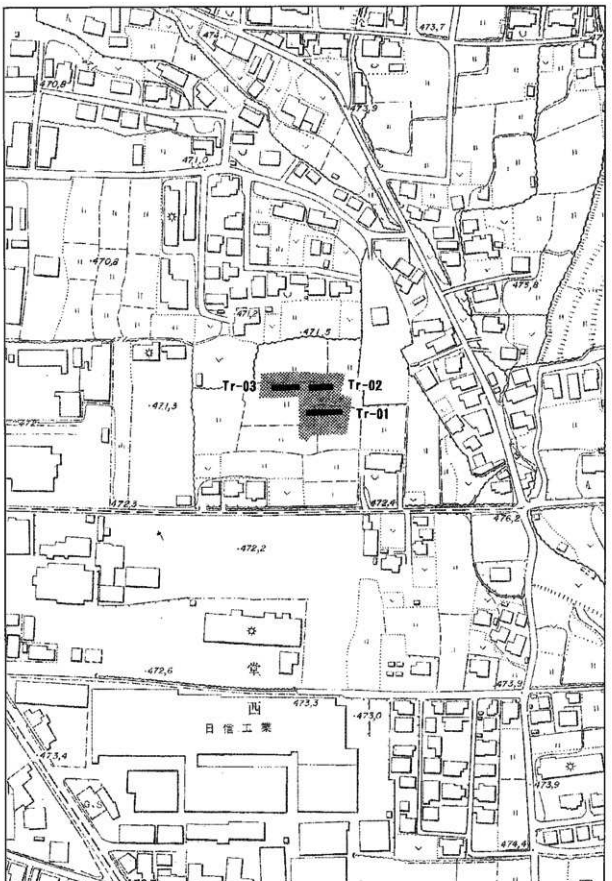
調査結果

住宅建設予定地内に東西方向のトレンチ3本を入れ、遺構・遺物の確認を行った。その結果、Tr01･Tr02 では遺構・遺物ともに確認されなかった。Tr03 では西端で溝状遺構らしい黒褐色土の陥ち込みが南北方向で残存しているのを確認した。広がりを把握するため周囲の表土を除去したが遺物の出土はなく、時代を特定するに至らなかった。なお、Tr02･ Tr03 部分は駐車場用地となることから、溝跡には工事による影響はないことを確認し、工事を実施した。

土層柱状図



1　表土
2　溶脱層
3　暗灰色粘質土
4　暗灰色粘質土（黄褐色・赤褐色の風化礫を含む）
5　黄褐色土



常入遺跡群調査地点位置図

染屋台条里水田跡遺跡（1）

1　調　査　地　上田市大字一本木８４８ほか
2　原　　因　共同住宅新築工事
3　開発面積　2,900㎡
4　調　査　日　平成12年5月2・3日
5　調査方法　幅約1mのトレンチを4本入れる
6　調査担当者　久保田敦子

遺跡の環境と経過

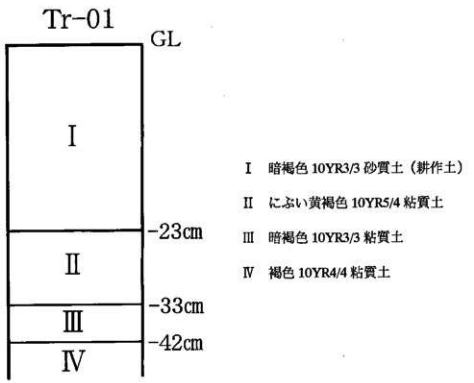
本遺跡は、上田市の東北部の染屋台と呼ばれる平坦面に位置する。この染屋台の面全体が埋蔵文化財包蔵地として括られており、遺跡が広範囲に及ぶため、調査に際し、字名を遺跡名として使用して区別している。水田跡は現在のところ発見されていないが、5回にわたる「創置の信濃国府跡」確認調査において各所に建物跡などが確認されている。また、最近では平成8年から9年に行った古城、西之手、上沖遺跡の発掘調査で、弥生、古墳、平安の各時代の遺構及び遺物が確認されている。

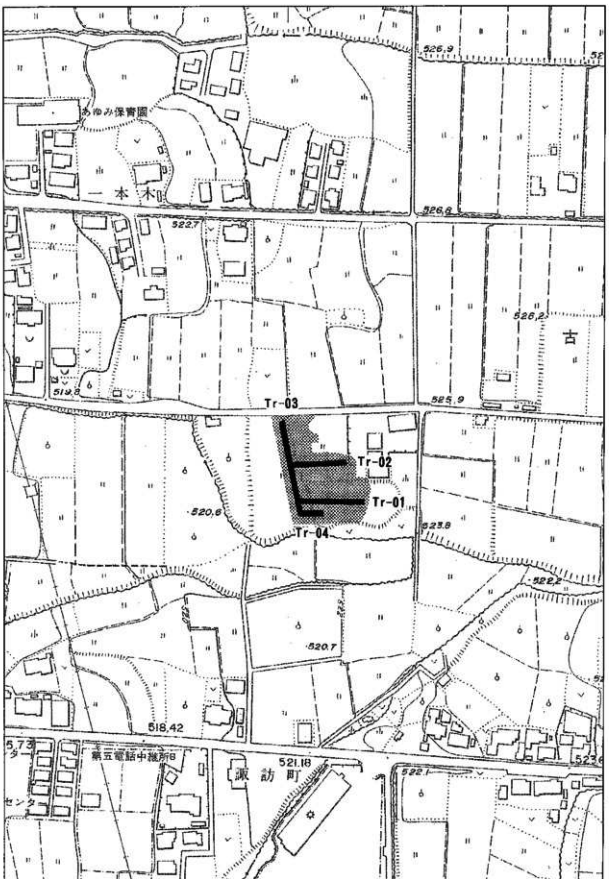
平成12年2月29日付開発事業届が上田市に提出され、現地調査を実施した結果、試掘調査が必要であると判断し、地権者の承諾を得て調査を実施した。

調査の結果

調査地に4本のトレンチを設定し、0.4バックホーにより掘削して試掘調査を行った。Tr-01とTr−03から少量の土師器片と打製石鏃が検出された。遺構はどのトレンチからも確認されなかったため、これらの遺物は他所からの流れ込みと考えられる。この結果、発掘調査の必要は認められないと判断した。

土層柱状図





染屋台条理水田遺跡(1)調査地点位置図

トレンチ－1

トレンチ－2

トレンチ－3

国分寺周辺遺跡群

1　調　査　地　上田市大字国分 1245-1 ほか
2　原　　因　国分ふれあい・(仮称) 国分新駅駅前広場整備事業
3　調査方法　幅約 1 mのトレンチを 3 本入れる
4　調　査　日　平成 12 年 5 月 11・12 日、6 月 19 日
5　開発面積　1,700 ㎡
6　調査担当者　久保田敦子

遺跡の環境と経過

この遺跡群は、千曲川右岸、国分地籍に位置し、国指定史跡「信濃国分寺跡」と重複、隣接している。前田・浦沖・堀・仁王堂・明神前・西沖の 6 遺跡の総称としており、そのうち仁王堂及び明神前遺跡が「信濃国分寺跡」と重複する。事業地は史跡指定地に東方に隣接する仁王堂遺跡の一部と浦沖遺跡の範囲内に計画されている。

浦沖遺跡は、昭和 23 年に国道 18 号線の開設工事中に遺跡が発見され、翌年に発掘調査が行われた。その結果、縄文中期に属する住居址が確認され、縄文時代中期、弥生時代後期、古墳時代後期から平安時代の遺物が多量に出土したとされている。また、仁王堂遺跡は、前述の学術調査で、弥生時代後期、奈良時代、平安時代の遺物が出土し、弥生時代後期から集落が展開していたことや僧寺廃絶後には新たな集落が構成されていたことが明らかになっている。

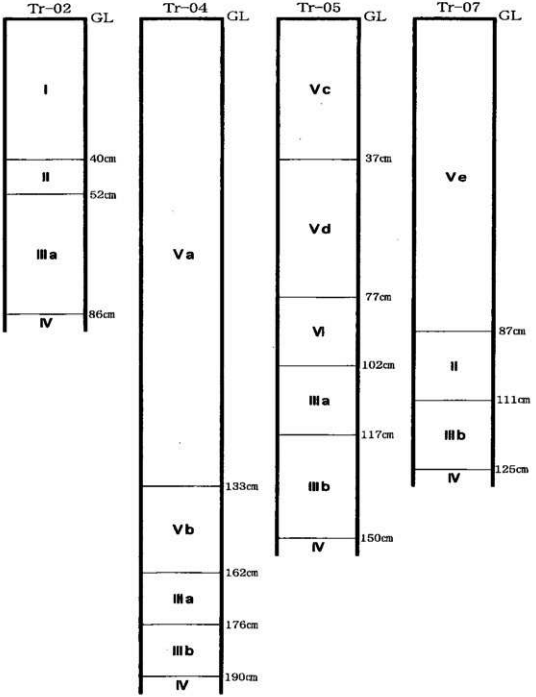
しなの鉄道 (仮称) 国分新駅駅前広場整備事業計画により、上田市管理課と協議の上、試掘調査が必要であると判断し、事業地内の移転が完了次第、5 月 11・12 日と 6 月 19 日の 2 回にわたって実施した。

調査の結果

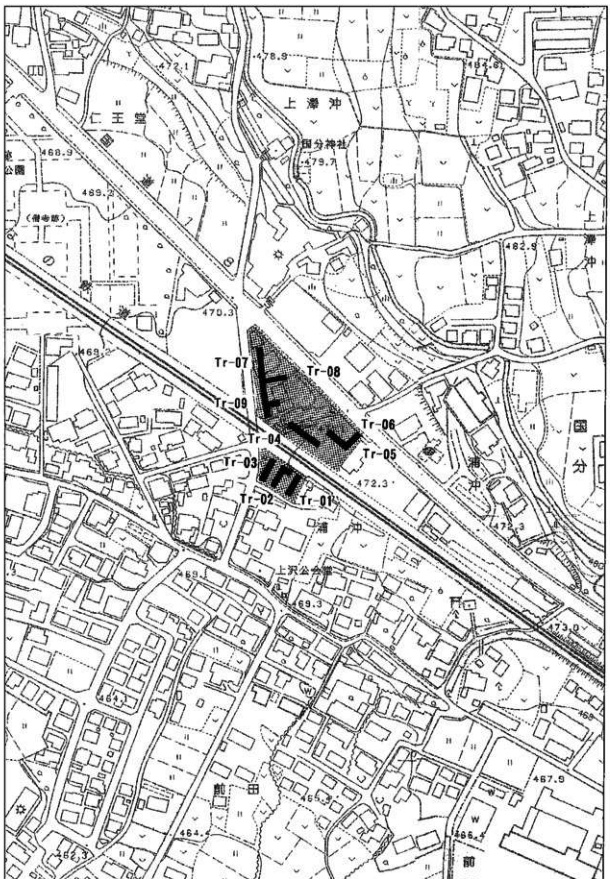
5 月 11・12 日、調査地にＴｒ－1からＴｒ－6の 6 本のトレンチを設定し、0.4 バックホーにより掘削して試掘調査を行った。この区域は、浦沖地籍にあたる。これらのトレンチから、縄文土器、弥生土器、土師器及び灰釉陶器等の破片が検出された。遺構は第Ⅲ層の下層から検出され、どのトレンチからも確認された。この結果、本区画全域に遺跡が存在すると判断し、トレンチの埋め戻しを行い調査を終了した。

6 月 19 日、調査地にＴｒ－7からＴｒ－9の 3 本のトレンチを設定し、0.4 バックホーにより掘削して試掘調査を行った。この区域は、仁王堂地籍にあたる。これらのトレンチから、須恵器及び土師器の破片が検出された。遺構は第Ⅲ層の下層から検出され、どのトレンチからも確認された。この結果、本区画全域に遺跡が存在すると判断し、同日トレンチの埋め戻しを行い、調査を終了した。

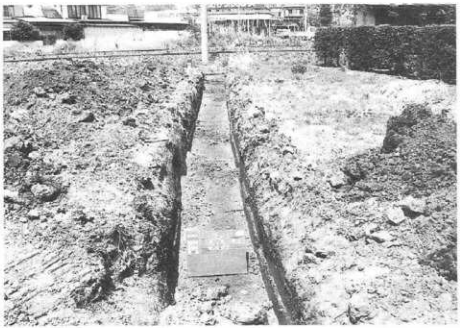
土層柱状図



I　灰褐 10YR5/2 色砂質土（耕作土）
II　褐 7.5YR4/4. 4/5 色砂質土
IIIa　黒褐 10YR3/2 色砂質土（遺物包含層）
IIIb　黒褐 10YR2/3～3/2 色砂質土（遺物包含層）
IV　黒褐～暗褐 7.5YR2/2～2/3 YR 色砂質土（遺構検出面）
Va　黒褐 10YR3/1 色砂質土（盛土）
Vb　黒褐 10YR2/2 色砂質土（盛土）
Vc　砕石（盛土）
Vd　褐 10YR4/4 色砂質土（盛土）
VI　オリーブ黒 5Y3/1 色粘質土（耕作土）



国分寺周辺遺跡群調査地点位置図



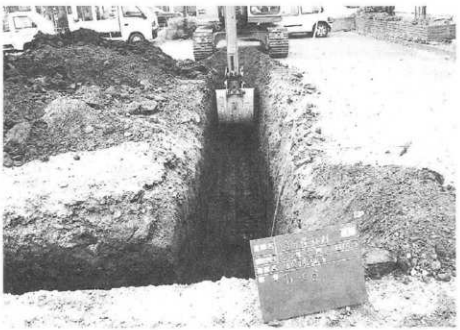
トレンチ－1

トレンチ－2

トレンチ－3

トレンチ－4

トレンチ－5



トレンチ－6

トレンチ－7

トレンチ－8

トレンチ－9

史跡信濃国分寺跡(国分周辺遺跡群)

1　調　査　地　上田市大字国分字仁王堂 1027　国分寺境内
2　原　　因　参詣者休息施設建設
3　開発面積　60 ㎡
4　調　査　日　平成 12 年 7 月 31 日・8 月 7 日(調査)、9 月 1 日(埋め戻し)
5　調査方法　開発区域全面の表土を除き、遺構を検出する。
6　調査担当者　中沢徳士

遺跡の環境と経過

史跡信濃国分寺跡は、奈良時代の信濃国分寺域と、周囲の現国分寺や国分神社、下堀神社を包括する形で、55,000 ㎡が指定されている。

現国分寺は、八日堂ともいわれ、その創建は、信濃国分寺が廃絶したと推定される平安時代中期からほど遠くない時期と考えられているが、文献でも考古学的研究でも、その実証はされていない。現国分寺に残る三重塔は、室町時代の様式を伝えているので、遅くともこの時期には現在の伽藍の原型が構築されていたと考えられる。

今回、この現国分寺境内の西側に参詣者の休息施設を建設する現状変更申請により、事前に発掘調査を実施することとなった。

調査の結果

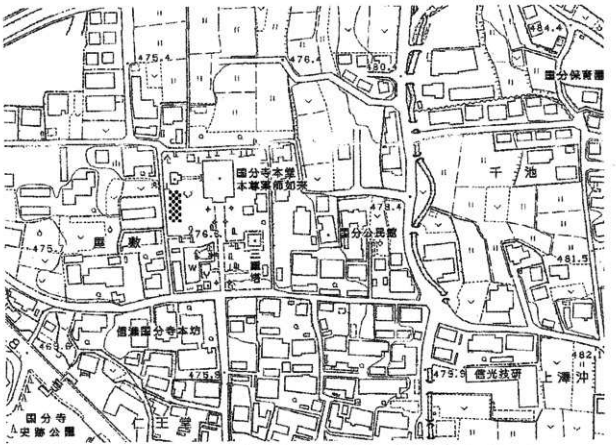
調査は、遺構の現状保存を目的とした。しかし、かつてこの周辺で行われた調査の結果を見ると、遺構の検出面が必ずしも明らかでなく、トレンチではその把握が困難と予想されたため、あえて建築敷地の表土を全面にわたって除き、遺構検出面を明らかにすることとした。

調査の結果、地表面から 80 ㎝の、橙色砂礫混弱粘質土層の上にピット群などの遺構が確認された。検出された遺構は、現状保存を旨としたため、掘り上げることは控えたが、ピット群は、掘立柱建物を形成する柱穴の一部と思われる。また、出土遺物では、古瓦や土師器・須恵器とともに土師質土器や陶器・磁器も出土し、現国分寺が創建された以降、現代まで、断続的に建物等が存在していたことを伺わせる。

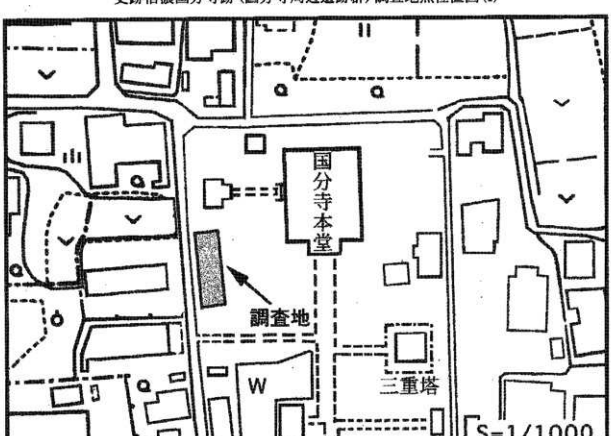
また、調査区西側に検出した木桶 2 つを擁する土坑は、近世もしくは近代の水桶か肥溜めかとも思われるが、桶は朱塗りとなっていた形跡もあり、判然としない。

調査後、遺構の保護のため、保護砂を 20 ㎝の厚さで敷き詰め、掘った土を埋め戻し、申請者の設計変更の協力もいただき、遺構の保護を図った。

遺構検出状況（北から）

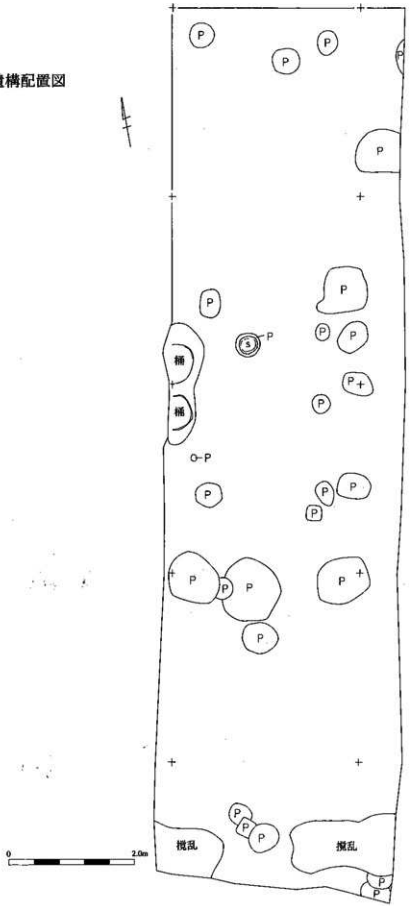


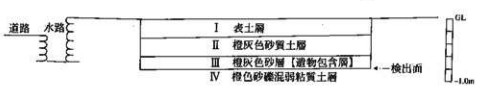
史跡信濃国分寺跡（国分寺周辺遺跡群）調査地点位置図(1)

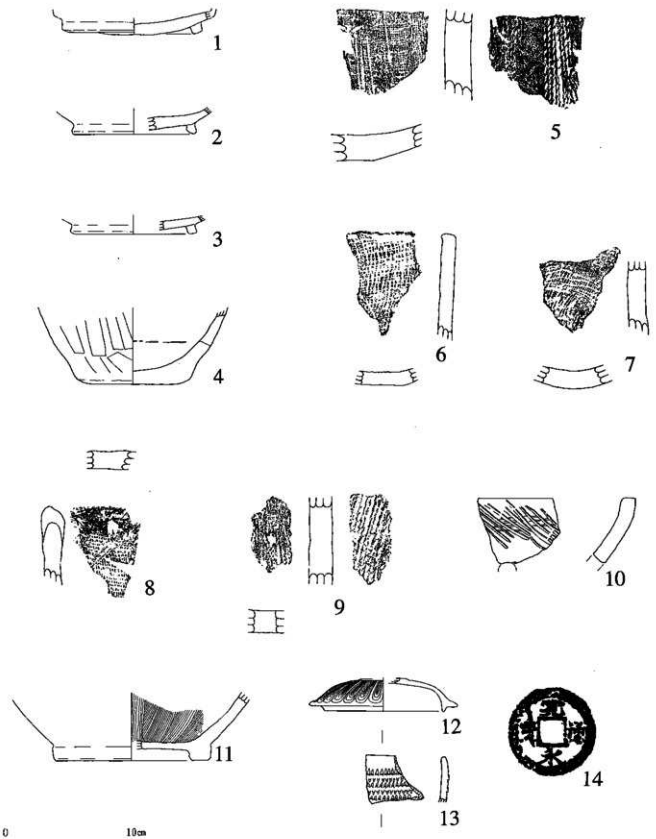


史跡信濃国分寺跡（国分寺周辺遺跡群）調査地点位置図(2)

遺構配置図


P
S
桶
桶
攪乱
攪乱
0
2.0m


道路
水路
Ⅰ 表土層
Ⅱ 橙灰色砂質土層
Ⅲ 橙灰色砂層【遺物包含層】
Ⅳ 橙色砂礫混弱粘質土層
検出面
GL
-1.0m



史跡信濃国分寺跡（国分寺周辺遺跡群）出土遺物実測図

No	種類	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
01	須恵器	坏	-	1.9	10.1	底部1/2	白色粗砂粒を僅かに含む	良好	5G5/1緑灰	5BG6/1青灰	坏部の底部が低く垂れ、付高台が浮いている。	底部回転糸切りの後、外周のみ整調整 高台部横位の撫で	横位の撫で	
02	須恵器	坏	-	2.1	9.5	底部1/3 高台部1/4	白色細砂粒をごく僅かに含む	良好	5RP6/1紫灰	5RP5/1紫灰	付高台の底部。	底部篦調整 高台部横位の撫で	横位の撫で	
03	須恵器	坏	-	1.4	9.4	底部1/8 高台部1/4	白色粗砂粒を少量含む	良好	5PB3/1暗青灰	5B5/1青灰	付高台の底部。	底部篦調整 高台部横位の撫で	横位の撫で	
04	土師器	甕	-	6.1	6.5	胴部下位1/3 底部1/2	白・茶色粗砂粒と石英を少量含む	良好	7.5YR 5/3にぶい褐	10YR 6/3にぶい黄橙	平底から胴部は緩やかに立ち上がる。粘土帯積上げ	胴部縦位の篦削り	横位の撫で	内面に粘土帯の積上げ痕が残る。
05	瓦	平瓦	7.5	7	2.1		白色粒を含む	良好	5B5/1青灰	5B5/1青灰			縄目	布目	
06	瓦	平瓦	8.2	4.9	1.1		白・灰色粒を含む	良好	5B5/1青灰	10BG 5/1青灰			撫で	布目	
07	瓦	平瓦	5.8	5	1.5		白・茶色粗砂粒を含む	良好	10YR 7/4にぶい黄橙	7.5YR 7/6橙			撫で	布目	
08	瓦	平瓦	6.7	5	1.8		白・茶色粒を少量含む	良好	7.5YR 8/4浅黄橙	7.5YR 8/4浅黄橙			布目	撫で	
09	瓦	平瓦	7	3.2	1.9		白色粒を僅かに含む	良好	5B5/1青灰	5B5/1青灰			縄目	布目	
10	土師質土器	鉢	-	5.1	-	口縁部一部	白・黒色細砂粒を少量含む	良好	5YR5/8明赤褐	5YR6/8橙	緩やかに内弯する体部。口唇部は面取り。体部中位に孔を穿つ。	櫛歯状工具による撫で	精緻な篦磨き	口唇部吸炭。
11	陶器	擂鉢	-	5.5	12.0	底部1/2	白・黒色粗砂粒と石英を多量に含む	良好	7.5YR 4/6褐	7.5YR 5/8明褐	平底に高台を施し、体部は内弯して立ち上がる。	撫で		内外面に施釉。
12	磁器	蓋	9.5	2.6	-	1/2	精良	良好	5YR6/8橙・白・青	N8/0 灰白	天井部は高く張り、かえりの大きな据部に至る。	版型による蓮華文		内外面に透明な釉薬。天井部外面は同心円状に外周から橙～青～橙色に着色。
13	磁器	卸	-	3.6	-	一部	精良	良好	N8/0 灰白	N8/0 灰白		千枚通し状の工具を胎土に刺し、抜かずに返して戳い凹凸を形成する。		
14	銭貨	寛永通寶	直径2.3	厚さ1.0		完存		良好						

史跡信濃国分寺跡(国分周辺遺跡群)出土遺物観察表

表土剥ぎ

遺構検出

埋め戻し

01

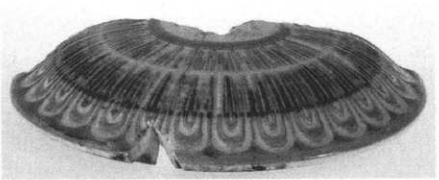
02

03

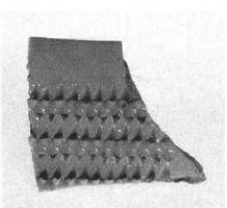
04

10

11



12



13

比蘭樹遺跡

1　調　査　地　上田市大字別所温泉
2　原　　因　長野県営住宅団地建替
3　開発面積　2,200㎡
4　調　査　日　平成12年9月13日
5　調査方法　幅約1mのトレンチを4本入れる。
6　調査担当者　小笠原 正

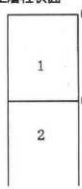
遺跡の位置と経過

比蘭樹遺跡は上田市郊外の別所温泉に位置する。『上田市の原始・古代文化』(1977年・上田市教育委員会)によると「縄文早期の繊維土器・打製石斧・磨製石斧・石匙が出土している。分布範囲は判然としない。」とある。本遺跡は平成10年度に同じ県営住宅建替の第1期工事で試掘調査を行っている。今回は第2期工事に先立って試掘調査を行い引き続き遺跡の有無を確認したものである。

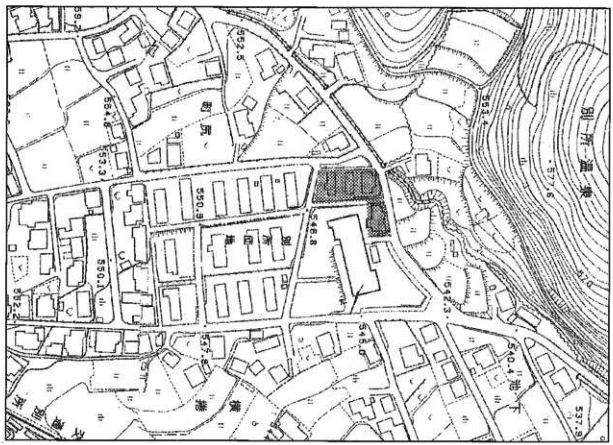
調査結果

団地建替予定地内にトレンチ4本を入れ、遺構・遺物の確認を行った。その結果、いずれのトレンチにおいても遺構・遺物ともに全く確認できなかった。

土層柱状図



1　撹乱層（団地造成時の埋土）
2　黄褐色土（砂礫、拳大～人頭大の礫を含む）



比蘭樹遺跡調査地点位置図

史跡信濃国分寺跡(国分寺周辺遺跡群・明神前遺跡)

1　調　査　地　　上田市大字国分字明神前 1845-1,1846-2,1847-2
2　原　　因　　住宅建築
3　開発面積　　200 ㎡
4　調　査　日　　平成 12 年 10 月 2 日．10 月 11 日
5　調査方法　　開発区域全面の表土を除き、遺構を検出する。
6　調査担当者　　中沢徳士

遺跡の環境と経過

史跡信濃国分寺跡は、奈良時代の信濃国分寺域と、周囲の現国分寺や国分神社、下堀神社を包括する形で、55,000 ㎡が指定されている。

調査地は、尼寺寺域の西側に隣接し、昭和 46 年の国鉄信越線(現しなの鉄道)複線化に伴う発掘調査で墨書土器を多量に出土した明神前遺跡(当時は、堂西遺跡と称していた。)の範囲にある。今回、当地に個人住宅を建設する現状変更申請により、事前に発掘調査を実施することとなった。

調査の結果

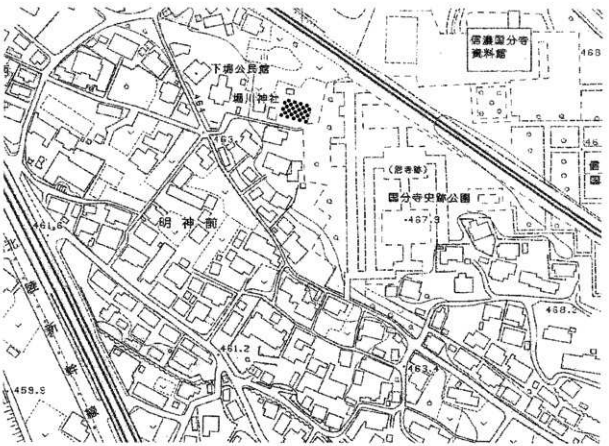
調査は、遺構の現状保存を目的とした。しかし、過去の調査で、遺構検出面が GL-90 ㎝と深く、地盤も軟弱であり、トレンチだけでは遺構の実体の把握が困難と予想されたため、あえて建築敷地の表土を全面にわたって除き、遺構検出面を明らかにすることとした。

調査の結果、地表面から 90．100 ㎝の、砂礫土層の上に住居址や土坑、ピットなどの遺構が確認された。検出された遺構は、現状保存を旨としたため、掘り上げることは控えたが、その形態から古墳時代後期から平安時代にかけてのものと思われる。また、調査区南東隅に土間状の一段高い堅緻な面と、2 箇所の焼土と灰の混じった遺構が検出されたが、おそらく近世もしくは近代の民家における「カッテ」の竈(へっつい)の跡と思われる。

出土遺物では、墨書土器が 7 点出土したほか、古瓦や土師器・須恵器・灰釉陶器が出土した。墨書土器は、確認できるものは図示したが、このうち、判読できるのは、遺物番号 23「北」、24「中」、25「宍」、27「□□舟□」、28「仲」で、26 については、「完」「宍」「園」のいずれかと思われる。

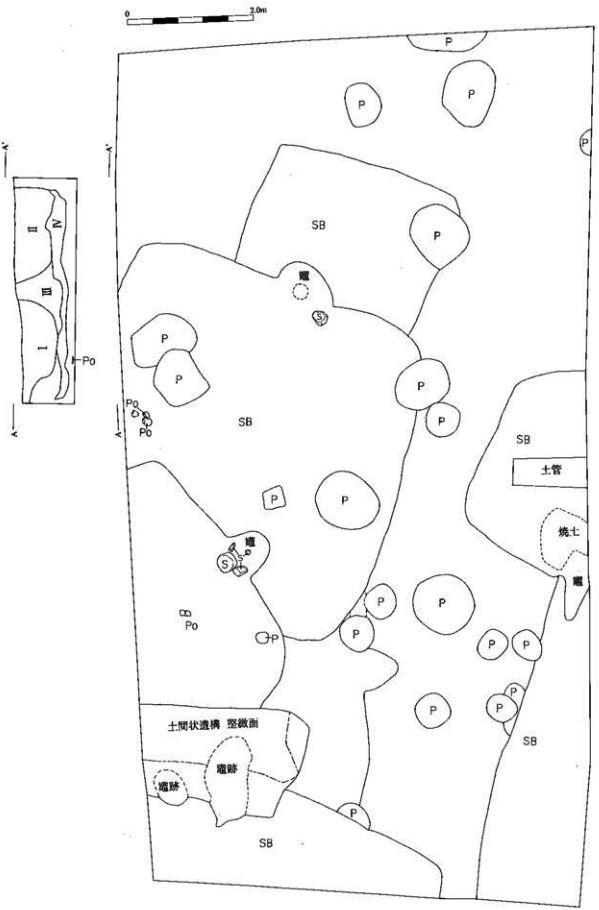
この遺跡は、信濃国分寺の創建前古墳時代と、廃絶直後の平安時代中期以降に形成された集落址の一部と思われる。調査後、遺構の保護のため、保護砂を 20 ㎝の厚さで敷き詰め、掘った土を埋め戻し、申請者の設計変更の協力もいただき、遺構の保護を図った。

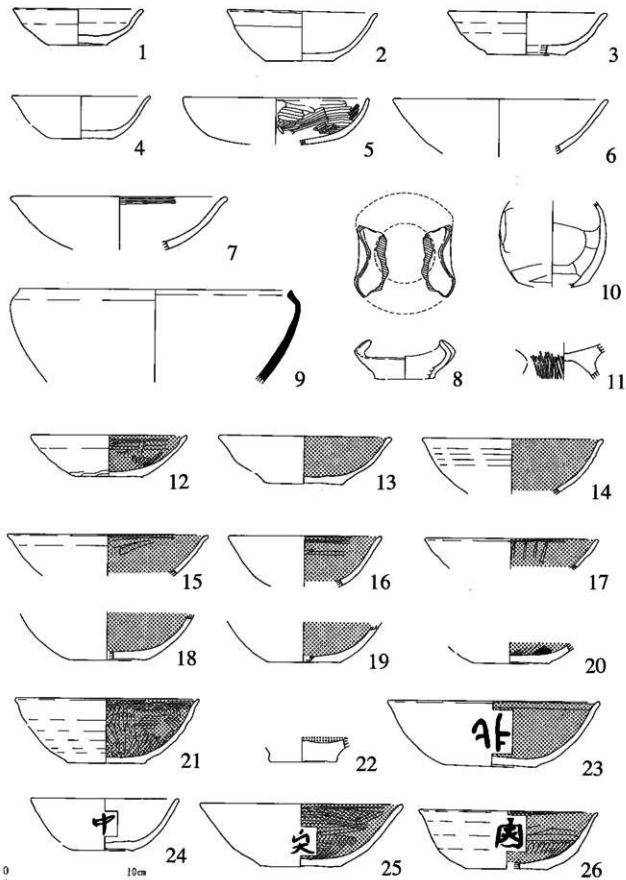
遺構検出状況（東から）



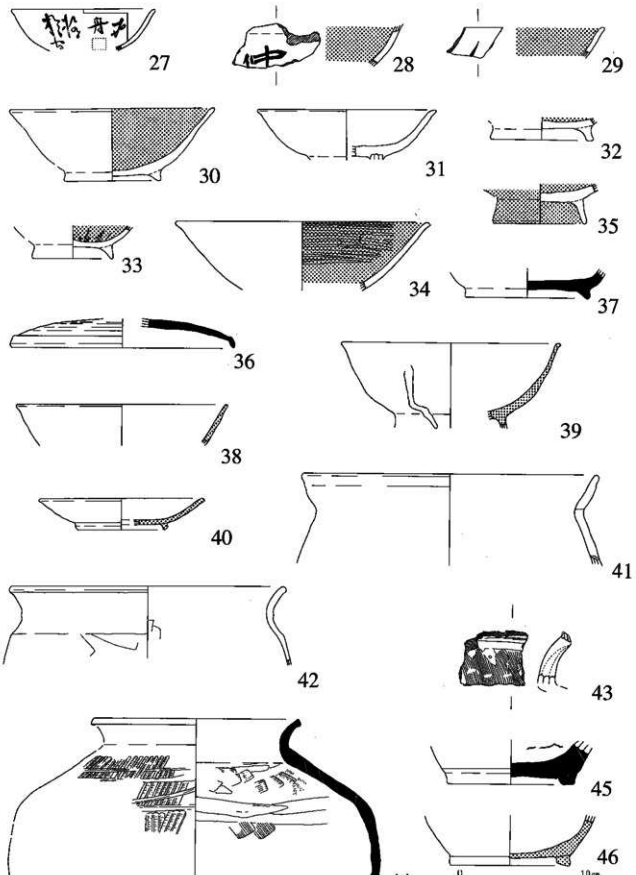
史跡信濃国分寺跡（国分寺周辺遺跡群・明神前遺跡）調査地点位置図

遺構配置図

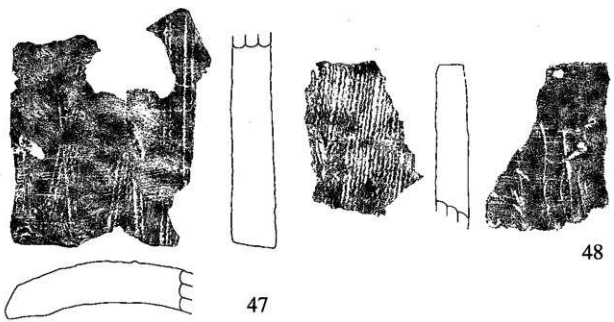


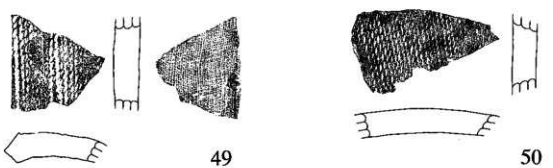


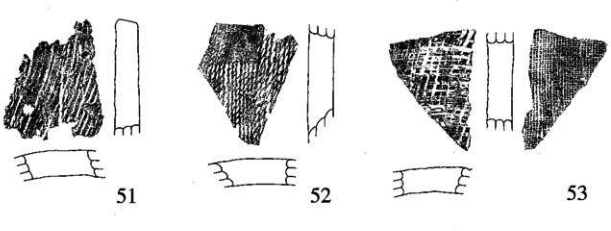
史跡信濃国分寺跡（国分寺周辺遺跡群・明神前遺跡）出土遺物実測図(1)



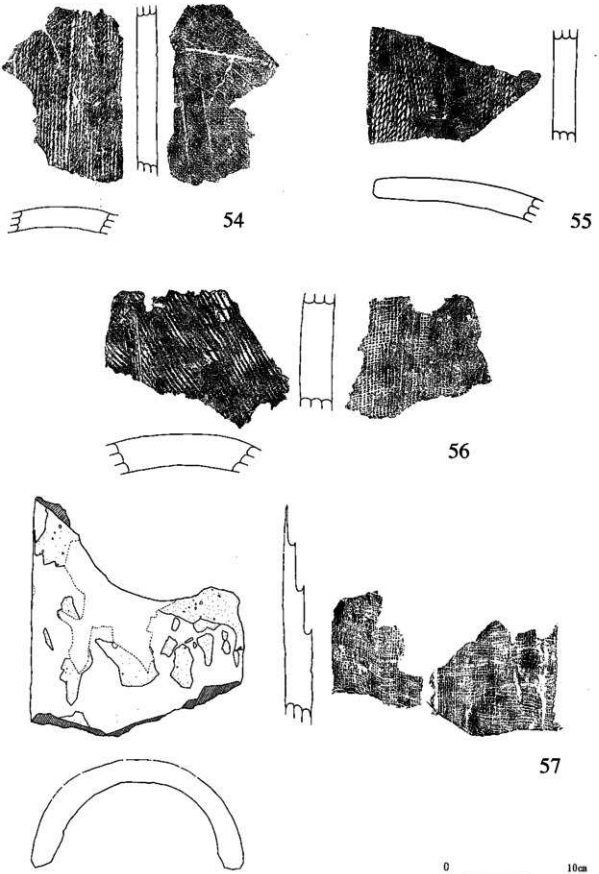
史跡信濃国分寺跡（国分寺周辺遺跡群・明神前遺跡）出土遺物実測図(2)



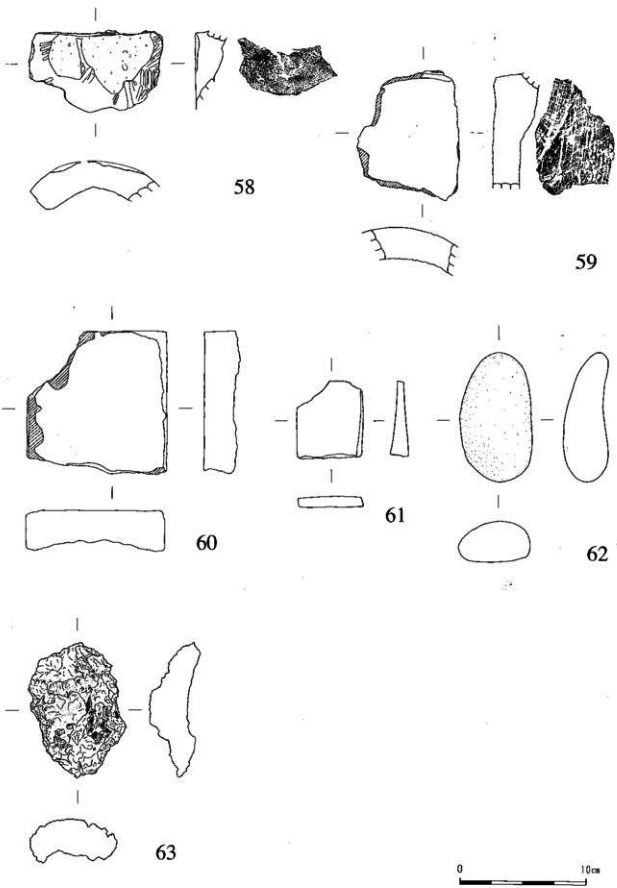




史跡信濃国分寺跡（国分寺周辺遺跡群・明神前遺跡）出土遺物実測図（3）



史跡信濃国分寺跡（国分寺周辺遺跡群・明神前遺跡）出土遺物実測図(4)



史跡信濃国分寺跡（国分寺周辺遺跡群・明神前遺跡）出土遺物実測図(5)

No	種類	器種	口　径	器(残)高	底径(縁)	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
1	土師器	皿	10.1	2.9	4.6	完存	茶・白色の粗砂粒を少量含む。	良好	5YR6/6橙色	5YR6/6橙色	上げ底気味の底部から体部は内弯し、稜を経て僅かに外反する口縁部に至る。輪積成形	口縁部横位の撫で体～底部軸線による撫で	口縁部横位の撫で体～底部軸線による撫で	
2	土師器	皿	11.7	3.9	5.3	3/4	茶・白・黒色の粗砂粒を少量含む。	良好	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/6橙色	平底から体部は内弯して、外反する口縁部に至る。輪積成形	口縁部横位の撫で体部軸線による撫で底部回転糸切り	口縁部横位の撫で体～底部軸線による撫で	
3	土師器	皿	12.3	3.4	6.3	1/4	茶・白色の粗砂粒を少量含む。	良好	5YR6/8橙色	5YR6/8橙色	上げ底気味の底部から体部は内弯して、僅かに外反する口縁部に至る。輪積成形	口縁部横位の撫で体部軸線による撫で底部回転糸切り	口縁部横位の撫で体～底部軸線による撫で	
4	土師器	皿	10.8	3.4	4.8	口縁部1/2体部3/4底部完存	茶・白色の粗砂粒を少量含む。	良好	2.5YR5/6明赤褐色	2.5YR5/6明赤褐色	平底から体部は内弯して外反する口縁部に至る。輪積成形	口縁～体部横位の撫で底部回転糸切り	口縁部横位の撫で体～底部軸線による撫で	
5	土師器	坏	14.6	3.7	–	口縁～体部1/4　底部一部	茶・白色の粗砂粒を少量含む。	良好	5YR5/6明赤褐色	5YR5/6明赤褐色	丸底から、体部は内弯して口縁部に立ち上がる。	口縁部横位の撫で体部横位の篦削りの後横位の精緻な篦磨き底部篦削りの後篦磨き	口縁部横位の撫で体～底部篦磨き	磨きにより、外内面とも光沢を放つ。
6	土師器	椀	16.7	4.6	–	口縁～体部1/4	白・茶色粗砂粒と茶色礫を少量含む。	良好	2.5YR5/6明赤褐色	2.5YR5/8明赤褐色	体部は緩やかに内弯しながら立ち上がる。	横位の撫で	横位の精緻な篦磨き	
7	土師器	椀	16.8	4.2	–	口縁～体部1/5	白色粗砂粒を含む。	良好	7.5YR4/2灰褐色	5YR5/6明赤褐色	体部は緩く内弯しながら大きく開き、口縁部で外反する。	横位の撫で	口縁部横位の篦磨き体部縦位の篦磨きか	
8	土師器	耳皿	8.0	3.1	4.7	口縁～体部1/4	白・黒・茶色粗砂粒を少量含む。	良好	7.5YR7/6橙色	5YR5/4にぶい赤褐色		口縁～体部撫で底部回転糸切り	横位の撫で	
9	須恵器	鉢	21.6	7.4	–	口縁～体部1/5	白・黒色粗砂粒を含む。	良好	5G4/1暗緑灰色	5B5/1青灰色	体部は内弯して、口縁部で内傾して摩まる。	横位の撫で	横位の撫で	
10	土師器	鉢	–	6.8	–	体部1/4	白色粗砂粒を含む。	良好	5YR4/1褐灰色	5YR6/4にぶい橙色	体部は内弯内傾して立ち上がる。	斜・横位の篦削り	横位の篦撫で	
11	土師器	高坏	–	2.9	–	坏部と脚部の接合部	白・黒・茶色の粗砂粒を含む。	良好	5YR5/6明赤褐色	7.6YR4/1褐灰色		櫛歯状工具による掻き取り	坏部撫で　脚部篦撫で	
12	土師器	皿	12.2	3.3	5.4	口縁～体部1/6　底部1/3	茶・白色の粗砂粒を少量含む。	良好	5YR5/6明赤褐色	黒色	平底から体部は内弯しながら立ち上がり、僅かに外反する口縁部に至る。輪積成形	口縁部横位の撫で体部上～中位輪線による撫で　体部下位斜位の篦削り底部回転糸切り	口縁部横位の篦磨き体～底部放射状の篦磨き　黒色処理	

史跡信濃国分寺跡(明神前遺跡)出土遺物観察表(1)

No	種類	器種	口径	器(残)高	底径(幅)	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
13	土師器	皿	13.4	4.0	6.2	口縁部1/2 体部2/3 底部完存	茶・灰・白色の粗砂粒を少量含む。	良好	5YR5/6明赤褐色	黒色	上げ底気味の底部から、体部は中位で僅かに屈曲して内弯し、口縁部に立ち上がる。輪積成形	口縁部横位の撫で 体部輪積による撫で 底部回転糸切り	口縁部横位の撫で 体～底部輪積による撫で　黒色処理	
14	土師器	坏	14.2	4.4	-	口縁～体部1/4	茶・白色の粗砂粒を少量含む。	良好	10YR5/3にぶい黄褐色	黒色	体部は内弯して、僅かに外反する口縁部に至る。輪積成形	口縁部横位の撫で 体部輪積による撫で	口縁部横位の撫で 体部横位の精緻な篦磨き　黒色処理	
15	土師器	坏	15.8	3.3	-	口縁部1/6 体部1/8	茶・白・黒色の粗砂粒を少量含む	良好	5YR4/6赤褐色	黒色	体部はごく僅かに内弯し、外反する口縁部に立ち上がる。輪積成形	口縁部横位の撫で 体部輪積による撫で	口縁部横位の篦磨き 体部上位斜位の篦磨き 体部下位縦裁な縦位の篦磨き　黒色処理	
16	土師器	坏	12.0	4.0	-	口縁～体部1/4	茶・白色の粗砂粒を少量含む。	良好	5YR5/4にぶい赤褐色	黒色	体部は緩く内弯して、僅かに外反する口縁部に至る。輪積成形	口縁部横位の撫で 体部輪積による撫で	口縁～体部上位横位の篦磨き　体部下位放射状の精緻な篦磨き 黒色処理	
17	土師器	坏	13.4	2.4	-	口縁～体部1/4	茶・白・黒色の粗砂粒を少量含む。	良好	7.5YR6/4にぶい橙色	黒色	体部はごく僅かに内弯し口縁部に立ち上がる。	横位の撫で	口縁部横位の篦磨き 体部横位の精緻な篦磨きの後縦位の篦磨き	
18	土師器	坏	-	3.8	6.0	体部1/8 底部1/2	白色粗砂粒を含む	良好	7.5YR7/6橙色	黒色	平底から、体部は緩やかに内弯して立ち上がる。輪積成形	体部中位横位の撫で 体部下位輪積による篦削り　底部回転篦切り	精緻な篦磨き 黒色処理	
19	土師器	坏	-	3.2	5.7	体部1/6 底部1/2	白色粗砂粒を少量含む。	良好	5YR5/3にぶい赤褐色	黒色	平底から、体部は緩やかに内弯して立ち上がる。	体部中位輪積による撫で　体部下位輪積による篦削り　底部回転篦切りの後篦調整	精緻な篦磨き 黒色処理	
20	土師器	坏	-	1.8	6.0	体部下位～底部のみ	白・褐色粗砂粒を含む。	良好	5YR6/6橙色	黒色	平底	体部下位篦撫で 底部回転糸切り	放射状の篦磨き 黒色処理	
21	土師器	坏	14.5	5.1	6.2	口縁～体部1/2　底部完存　高台部欠損	白・黒・茶色の粗砂粒を少量含む。	良好	10YR6/4にぶい黄橙色	黒色	高台部が剥がれ欠損した平底から、体部は内弯して立ち上がり、口縁部で短く外反する。輪積成形。	口縁部横位の撫で 体部輪積による撫で 底部回転糸切り	口縁部横位の篦磨き 体部上位縦横位の篦磨き　体部中位～底部放射状の篦磨き 黒色処理	
22	土師器	坏	-	1.9	5.2	底部のみ	白・茶色粗砂粒を含む。	良好	2.5YR6/6橙色	黒色	底部の器厚が厚く、高台を擬している。	底部回転糸切り	黒色処理	
23	土師器	坏	16.4	5.2	7.2	3/4	茶・灰・白色の粗砂粒を少量含む	良好	5YR5/6明赤褐色	黒色	上げ底気味の底部から体部は内弯しながら立ち上がり、外反する口縁部に至る。	体部輪積による撫で 底部回転糸切り	口縁部横位の篦磨き 体～底部精緻な縦位の篦磨き　黒色処理	墨書「北」

史跡信濃国分寺跡(明神前遺跡)出土遺物観察表(2)

No	種類	器種	口径	器(残)高	底径(幅)	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
24	土師器	坏	11.6	4.1	4.8	口縁～体部1/2 底部完存	茶・灰・白色の粗砂粒を少量含む。	良好	5YR6/8橙色	5YR6/8橙色	上げ底気味の底部から体部は内弯しながら立ち上がり、外反する口縁部に至る。	体部轆轤による撫で 底部回転糸切り	轆轤による撫で	墨書「中」
25	土師器	坏	16.0	5.0	6.4	口縁～体部1/6 底部1/2	茶・白色の粗砂粒を少量含む。	良好	5YR5/4にぶい赤褐色	黒色	上げ底気味の底部から体部は内弯して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に至る。	体部轆轤による撫で 底部回転糸切りの後撫調整	口縁部横位の篦磨き 体部上位斜位の篦磨き 体部下位～底部放射状の篦磨き 黒色処理	墨書「宍」
26	土師器	坏	14.0	4.6	6.4	1/3	茶・灰・白色の粗砂粒と石英を少量含む	良好	5YR4/3にぶい赤褐色	黒色	平底から体部は内弯して立ち上がり、外反する口縁部に至る。	口縁～体部上位横位の撫で 体部下位横位の篦削り 底部篦調整	口縁～体部上位横位の撫で 体部下位～底部放射状の篦磨き 黒色処理	墨書「宍」「宍」「間」のいずれか
27	土師器	坏	11.2	3.3	–	口縁部1/4 体部1/5	茶・白色の粗砂粒を僅かに含む。	良好	5YR6/6橙色	5YR7/6橙色	体部は内弯し、外反する口縁部に至る。	横位の撫で	横位の撫で	墨書5文字有り。「舟」のほか判読不能
28	土師器	坏	–	3.3	–	体部の一部	茶・灰色の粗砂粒を少量含む。	良好	7.5YR6/4にぶい橙色	黒色		横位の撫で	横位の撫で 黒色処理	墨書「仲」
29	土師器	坏	–	2.4	–	口縁～体部の一部	茶・白色の粗砂粒を少量含む。	良好	7.5YR4/3褐色	黒色		横位の撫で	横位の撫で 黒色処理	墨書有り。
30	土師器	坏	16.1	5.7	7.6	口縁～体部1/8 底部ほぼ完存	白・褐色粗砂粒を少量含む。	良好	7.5YR6/4にぶい橙色	黒色	低い付け高台の底部から、体部は緩やかに内弯して立ち上がり、上位で外反して口縁部に至る。轆轤成形。	口縁～体部轆轤による撫で 底部篦調整	精緻な篦磨き 黒色処理	
31	土師器	坏	14.0	4.0	–	口縁～体部1/5 底部1/3	茶色粗砂粒を含む。	良好	5YR6/6橙色	5YR6/6にぶい橙色	付け高台の底部から、体部は緩く内弯して、短く外反する口縁部に至る。轆轤成形	口縁～体部轆轤による撫で 底部篦調整	轆轤による撫で	
32	土師器	坏	–	1.8	7.8	底部のみ完存	白・茶色粗砂粒を少量含む。	良好	7.5YR7/8黄橙色	黒色	付け高台	横位の撫で	放射状の精緻な篦磨き 黒色処理	
33	土師器	坏	–	2.6	6.2	底部のみ	白色粗砂粒を少量含む。	良好	10YR6/2灰黄橙色	黒色	付け高台の底部から体部は強く内弯して立ち上がる。	横位の撫で	放射状の篦磨き 黒色処理	
34	土師器	椀	19.8	5.5	–	口縁部1/6 体部1/5	白・茶色粗砂粒を少量含む。	良好	10YR7/4にぶい黄橙色	黒色	体部は緩く内弯して、口縁部で外反する。	横位の撫で	横位の篦磨き	

史跡信濃国分寺跡(明神前遺跡)出土遺物観察表(3)

No	種類	器種	口径	器(残)高	底径(幅)	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
35	土師器	坏	-	3.2	7.2	体部下位欠損か～底部	白・茶色粗砂粒を少量含む。	良好	黒色	黒色	高い高台部	体部下位～高台部横位の撫で　底部回転糸切り　底部と高台部の接合部篦による回転の撫でつけ　黒色処理	放射状の篦磨き　黒色処理	外面の一部に黒色処理が施されない。
36	須恵器	壺	-	2.3	17.5	1/4	白・黒色の粗砂粒を僅かに含む。	良好	10Y4/1灰色	10Y5/1灰色	天井部は張りをもち、屈曲して外形する稜部に至る。　輪積成形	天井部輪積による撫で　稜部横位の撫で	天井部輪積による撫で　稜部横位の撫で	
37	須恵器	坏	-	2.3	9.6	体部一部底部1/2	黒色粗砂粒と石英をごく僅かに含む。	良好	N4/0灰色	5Y5/1灰色	付け高台の底部から体部は強く内弯して立ち上がる。輪積成形	体～高台部横位の撫で　底部回転糸切りの後篦調整	輪積による撫で	
38	灰釉陶器	坏	16.5	3.3	-	口縁～体部1/6	白色粗砂粒を少量含む。	良好	N8/0灰白色	N8/0灰白色	体部は僅かに内弯する。輪積成形	輪積による撫で	輪積による撫で	
39	灰釉陶器	椀	17.1	4.8	-	口縁部1/6　体部1/2　底部一部	精良	良好	7.5Y8/1灰白色	7.5Y8/1灰白色	付け高台の底部から体部は緩く内弯して立ち上がり、外反する口縁部に至る。輪積成形	輪積による撫で	輪積による撫で	
40	灰釉陶器	皿	12.8	2.5	6.8	1/3	白・黒色の細砂粒をごく僅かに含む。	良好	5Y7/1灰白色	5Y7/1灰白色	付け高台の底部から体部は緩く内弯して立ち上がる。輪積成形	口縁部横位の撫で　体部輪積による撫で　高台部横位の撫で　底部回転糸切り	口縁部横位の撫で　体～底部輪積による撫で	
41	土師器	甕	23.2	7.2	-	口縁1/10～胴部1/8	茶・白・黒色の細砂粒を僅かに含む。	良好	5YR5/3にぶい赤褐色	5YR6/6橙色	張りのある胴部上位から「く」の字の頸部を経て内弯気味の口縁部に至る。粘土帯積み上げ。	横位の撫で	横位の撫で	
42	土師器	甕	21.4	5.7	-	口縁～胴部上位1/8	茶・白・黒色の粗砂粒と石英を僅かに含む。	良好	5YR4/6赤褐色	5YR3/3暗赤褐色	胴部と頸部の変換部に稜を有して外反する口縁部に至る。	口縁～頸部横位の撫で　胴部篦削り	口縁～頸部上位横位の撫で　頸部下位～胴部篦撫で	
43	土師器	甕	-	4.2	-	口縁部の一部	白・黒色の粗砂粒を少量含む。	良好	10YR3/1黒褐色	10YR3/2黒褐色	口縁部は外反し、口唇部は内弯して面取りを施す。	口唇部横位の撫で　口縁部斜位の刷毛目	口唇部横位の撫で　口縁部篦磨き	
44	須恵器	甕	16.2	13.4	-	口縁～胴部上位1/4	白・黒色粗砂粒を含む。	良好	7.5YR4/2灰褐色	7.5YR4/3褐色	張りのある胴部から撫で肩を経て外反する口縁部に至る。口唇部は面取りを施す。	口縁～頸部横位の撫で　胴部横位の撫での後、平行文工具による叩き	口縁～頸部横位の撫で　胴部篦撫で及び木口状工具による掻き取り	
45	須恵器	壺	-	3.5	10.2	底部1/2	赤・白色の粗砂粒を含む。	良好	2.5YR2/3極暗赤褐色	5PB2/1青黒色	付け高台	体部横位の撫で　底部回転篦切りの後篦調整　高台部横位の撫で	横位の撫で	内面底部に漆薬が付着する。

史跡信濃国分寺跡(明神前遺跡)出土遺物観察表(4)

No	種類	器種	口径(長さ)	器(残)高(幅)	底径(厚さ)	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
46	須恵器	壺	-	4.0	9.4	体部の一部底部完存高台部2/3	黒色の粗砂粒を僅かに含む。	良好	10Y7/1灰白色	N7/0灰白色	輪積成形　付け高台	肩部輪積による箆削り底部回転箆切り高台部横位の撫で	輪積による撫で	
47	瓦	平瓦	17.1	14.8	3.6		茶・白・黒色の粗砂粒を含む。	良好	10Y3/2オリーブ黒色	10Y4/2オリーブ灰色		縄目+撫で	布目+撫で	
48	瓦	平瓦	13.0	8.6	2.6		白・黒色の粗砂粒を少量、石英を僅かに含む。	良好	10YR5/1褐灰色	10YR4/1褐灰色		縄目	布目+撫で	
49	瓦	平瓦	7.4	8.2	2.3		白・黒色の粗砂粒を少量、石英を僅かに含む。	良好	2.5YR5/1黄灰色	2.5YR4/1黄灰色		縄目	布目	
50	瓦	平瓦	6.3	11.5	1.9		茶・灰・白色の粗砂粒を少量含む	良好	7.5YR4/4褐色	7.5YR3/2黒褐色		縄目	撫で	
51	瓦	平瓦	9.4	6.5	2.0		白・黒色の粗砂粒を含む。	良好	5GY3/1暗オリーブ灰色	5GY3/1暗オリーブ灰色		平行文の叩き	撫で	
52	瓦	平瓦	9.4	7.0	2.0		茶・灰・白色の粗砂粒を含む。	良好	5YR4/6赤褐色	5YR4/4にぶい赤褐色		縄目	撫で	
53	瓦	平瓦	7.8	6.3	2.1		茶・白・黒色の粗砂粒を少量含む。	良好	7.5YR5/4にぶい褐色	10YR3/2黒褐色		格子目の叩き	布目	
54	瓦	平瓦	13.6	8.3	1.7		白・黒色の粗砂粒を少量含む。	良好	5Y3/1オリーブ黒色	7.5GY2/1緑黒色		縄目	布目	
55	瓦	平瓦	9.0	13.4	1.9		白・黒色の粗砂粒を含む。	良好	10G2/1緑黒色	5GY3/1暗オリーブ灰色		縄目	撫で	
56	瓦	平瓦	9.2	12.4	2.6		茶・白・黒色の粗砂粒を含む。	良好	10YR5/1褐灰色	10YR5/2灰黄褐色		平行文の叩き	布目+撫で	
57	瓦	丸瓦	16.6	16.8	2.2		1.0~.03の茶色礫が僅かと、茶・白・黒色粗砂粒を含む。	良好	7.5Y3/1オリーブ黒色	5Y3/1オリーブ黒色		撫で	布目	

史跡信濃国分寺跡(明神前遺跡)出土遺物観察表(5)

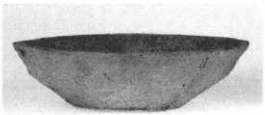
No	種類	器種	口径(長さ)	器(残)高(幅)	底径(厚さ)	残存	胎土	焼成	外面色調	内面色調	成形・形態	外面調整	内面調整	備考
58	瓦	丸瓦	6.0	10.2	2.5		0.5~0.3の糸色礫が僅かと、朱・白・黒色の粗砂粒を含む。	良好	2.5YR5/6明赤褐色	2.5YR5/6明赤褐色			布目	
59	瓦	丸瓦	9.4	7.7	2.5		白・灰色粗砂粒を少量含む。		7.5Y5/1灰色	2.5Y5/2暗灰黄色		撫で	布目	
60		磚	11.3	11.1	2.4				10YR8/3浅黄橙色	2.5Y7/3浅黄色				
61	石器	砥石	5.8	5.1	1.4	両端部欠損			7.5Y7/2灰白色					
62	石器	敲石	10.3	5.7	3.5		安山岩		10Y5/2オリーブ灰色					
63		鉄滓	10.7	6.9	3.0				7.5YR5/3にぶい褐色~10YR4/2灰黄褐色					

史跡信濃国分寺跡(明神前遺跡)出土遺物観察表(6)

表土剥ぎ・遺構検出

遺構検出

埋め戻し



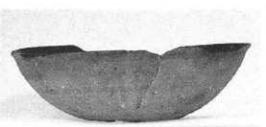
01

02

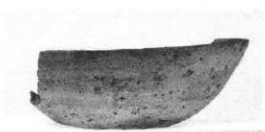
04

14

21



23



24

25

26

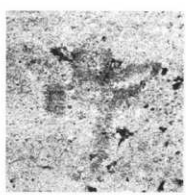
27

36

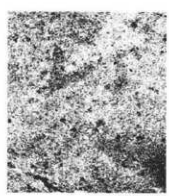
40

44

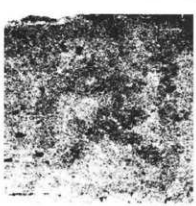
23墨書



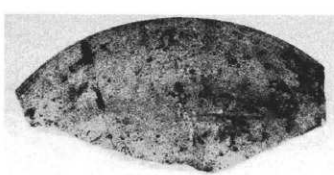
24墨書



25墨書



26墨書



27墨書

28墨書

染屋台条里水田跡遺跡（２）

1　調　査　地　　上田市大字古里 1731-3
2　原　　因　　共同住宅建設
3　開発面積　　513 ㎡
4　調　査　日　　平成 12 年 11 月 27 日
5　調査方法　　開発区域にバックホーによりトレンチを入れ、遺構の存否を確認する。
6　調査担当者　　中沢徳士

遺跡の環境と経過

染屋台は、上田市の北東部に広がる台地である。北は虚空蔵山と横山丘陵、東を神川に臨み、西は段丘崖により市街地と隔て、逆三角形を呈し、面積 5.76 ha を有する。

この台地状に広がる条里水田跡遺跡が、どの時代まで遡れるものか、現段階では結論が出ていない。善光寺平等に見られる埋没条里や水田址が地下遺構として確認されていないためである。これは、土砂の被覆が少なく、災害も少ない上田盆地の特性である。

また、条里水田跡として一括括られた範囲には、小規模な集落址等も従前の調査で確認されているが、そうした集落址の範囲等については、未だ明確になっていない。

今回、申請地に共同住宅を建築するという開発申請が提出されたことに伴い、試掘調査を実施し、遺跡の有無の確認を行うこととした。

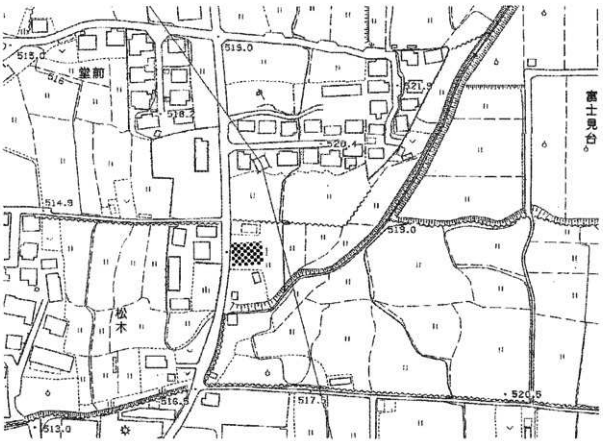
調査の結果

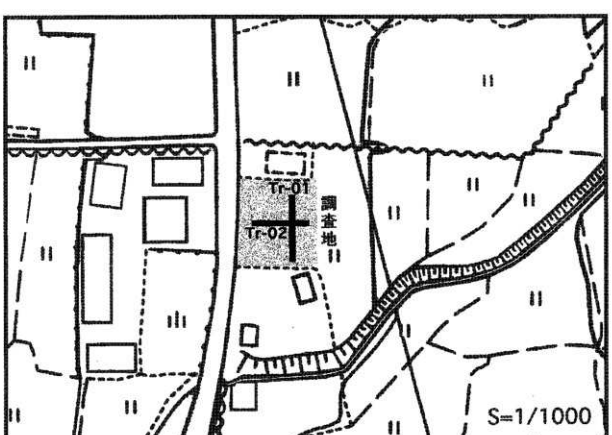
調査は、申請地に 2 本のトレンチを十字に設定し、バックホーにより掘削し、土層断面等によって遺跡の有無を確認した。

調査地は、染屋台地を北東から南西に斜行する旧河川によって形成された微段丘上に位置し、集落址の存在も想定されたが、調査の結果、申請地に埋没条里や集落址、遺物等は全く確認されず、遺跡が存在しないことが明らかとなった。

層序は、Ⅰ層が砂礫の埋め土、Ⅱ層が灰黄色の強粘土、Ⅲ層が青灰色の強粘土で、鉄分が溶脱・沈殿している。Ⅳ層は地山で、染屋台地特有の明黄橙色の強粘土に砂が混じった堅く締まりの良い土である。

土層断面





染屋台条理水田遺跡(2)調査地点位置図

調査風景（南東から）

Tr-01（北から）

調査地全景（北東から）

染屋台条里水田跡遺跡（３）

1　調　査　地　　上田市大字古里 1908-4
2　原　　因　　共同住宅建設
3　開発面積　　1,350 ㎡
4　調　査　日　　平成 12 年 12 月 4 日
5　調査方法　　開発区域にバックホーによりトレンチを入れ、遺構の存否を確認する。
6　調査担当者　　中沢徳士

遺跡の環境と経過

染屋台は、上田市の北東部に広がる台地である。北は虚空蔵山と横山丘陵、東を神川に臨み、西は段丘崖により市街地と隔て、逆三角形を呈し、面積 5.76 ha を有する。

この台地状に広がる条里水田跡遺跡が、どの時代まで遡れるものか、現段階では結論が出ていない。善光寺平等に見られる埋没条里や水田址が地下遺構として確認されていないためである。これは、土砂の被覆が少なく、災害も少ない上田盆地の特性である。

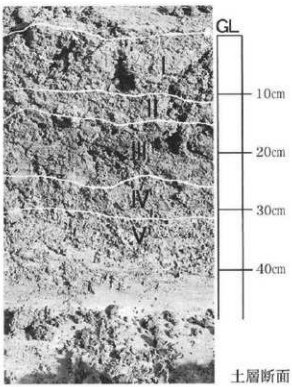
また、条里水田跡として一括括られた範囲には、小規模な集落址等も従前の調査で確認されているが、そうした集落址の範囲等については、未だ明瞭になっていない。

今回、申請地に共同住宅を建築するという開発申請が提出されたことに伴い、試掘調査を実施し、遺跡の有無の確認を行うこととした。

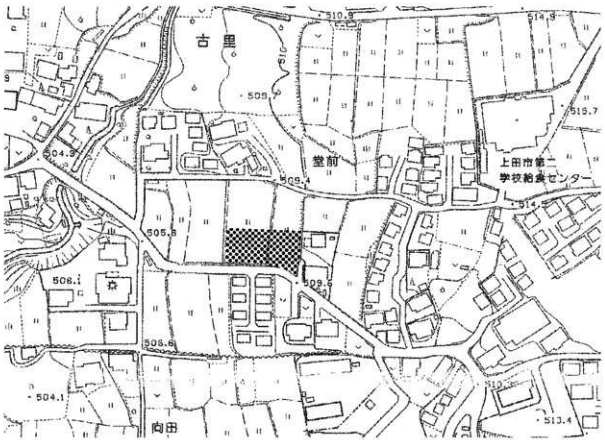
調査の結果

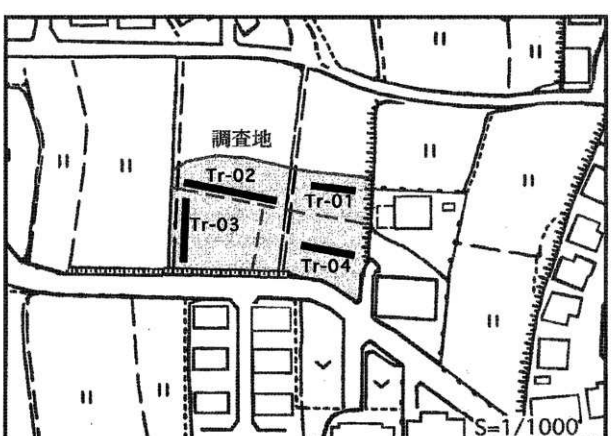
調査は、申請地に 4 本のトレンチを設定し、バックホーにより掘削し、土層断面等によって遺跡の有無を確認した。層序は、Ⅰ層が褐灰色の耕作土、Ⅱ層が褐灰色土に鉄分が溶脱・沈殿した土、Ⅲ層が暗褐色の弱粘質土、Ⅳ層が橙褐色の砂を含んだ弱粘質土、Ⅴ層が染屋台地の「白ねば」といわれる明黄灰色の強粘質土である。

調査の結果、申請地に埋没条里や集落址、遺物等は全く確認されず、遺跡が存在しないことが明らかとなった。



土層断面





染屋台条理水田遺跡(3)調査地点位置図

調査地全景（南東から）

Tr-01（北から）

Tr-04（東から）

木の下遺跡

1　調　査　地　上田市大字御所字神田
2　原　　因　共同住宅建設
3　開発面積　1,319㎡
4　調　査　日　平成13年3月13日
5　調査方法　バックホーにより5ヵ所で深掘りを行う。
6　調査担当者　小笠原 正

遺跡の位置と経過

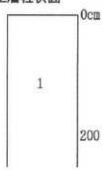
木の下遺跡は大字御所の御所公会堂周辺に広がる遺跡である。本遺跡では発掘調査が行われたことはないが、弥生時代から平安時代にかけての遺物が確認されている。

平成13年2月に事業主から共同住宅建設を行うとの連絡があったため、試掘調査を実施した。

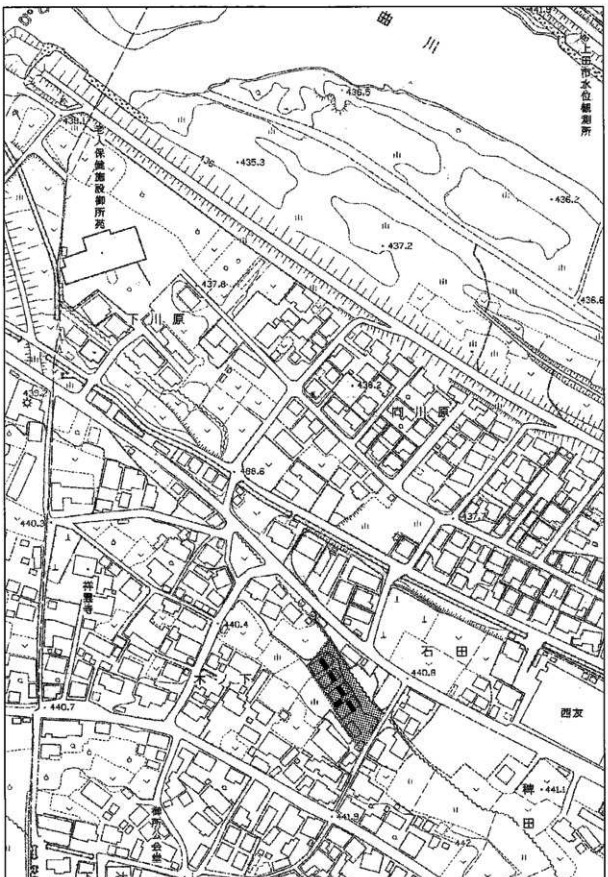
調査結果

住宅建設予定地内に5ヵ所の深掘りを行い土層の観察および遺構・遺物の有無を調査した。その結果、試掘調査区域内は以前の開発行為で土砂の除去が行われていたため、旧状を全く留めていないことが判明した。

土層柱状図



1　角礫を含んだ黄褐色砂礫（客土層）



木の下遺跡調査地点位置図

竹の裏遺跡

1　調　査　地　上田市大字山田 288-2
2　原　　因　耕作地整備
3　開発面積　-
4　確　認　日　平成 12 年 8 月 15 日
5　確　認　者　久保田敦子、中沢徳士

遺跡の位置と経過

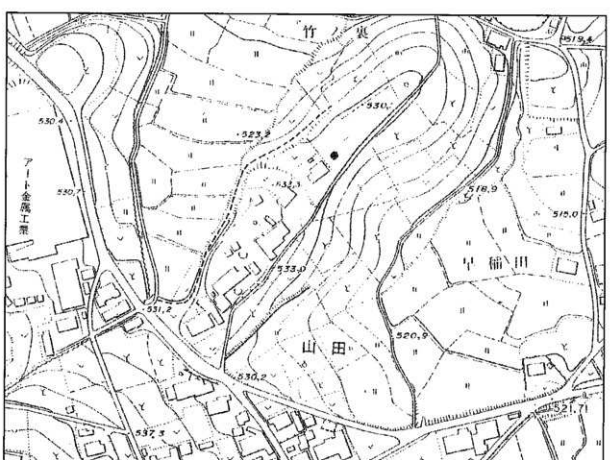
竹の裏遺跡は、大字山田の山田池の南方にのびる舌状台地の上にあり、磨製石斧や須恵器が出土することで知られている。

今回、山田自治会長経由で事務局に、所有者が耕作で深耕したところ、遺物らしい物が発見された、という通報があった。事務局で確認したところ、法篋印塔の身部が三方を石で囲まれるように出土しており、何らかの信仰関連遺構と思われた。

出土した法篋印塔身部は、L190×W187×H148 ㎜で、4 面に梵字が穿たれ、2 面には、紀年銘と享年が刻んであり、供養塔として創作されたものと考えられた。しかし、他の部位は発見されず、この塔身部だけが据え置かれるように出土している。

穿たれた梵字は、4 面とも釈迦如来をあらわす「アク」で、紀年銘及び銘文は、「□安元年」「四月廿六日」「□年七十七」とある。干支等の銘はなく、時代の特定は困難である。

当面、遺構や遺跡が破壊される懸念もなかったため、とりあえず写真と簡単な実測、拓本をとり、慎重に現状に復し、保存することとした。



竹の裏遺跡調査地点位置図

法篋印塔塔身部正面

裏面「□年七十七」

正面左「四月廿六日」

正面右「□月元年」

調 査 報 告 書 抄 録

ふりがな	しないいせき
書　　名	市内遺跡
副 書 名	平成12年度市内遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	上田市文化財調査報告書
シリーズ番号	第85集
編 著 者 名	久保田敦子
編 集 機 関	上田市教育委員会
所　在　地	〒386-0025　長野県上田市天神 2 丁目 4 番74号　℡0268-22-4100
発行年月日	2001年 3月23日

ふりがな 所収遺跡名	コード 市町村	 遺跡番号	試掘・事業 区域面積（㎡）	調 査 原 因
常入遺跡群（ときいりいせきぐん）	20203	57	962	共同住宅建設
染屋台条里水田跡遺跡（そめやだいじょうりすいでんあといせき）		52	2，900	共同住宅建設
国分寺周辺遺跡群（こくぶんじしゅうへんいせきぐん）		56	1，700	ふれあい・（仮称）国分新駅 駅前広場整備事業
史跡信濃国分寺跡（しせきしなのこくぶんじあと）		54	60	八日堂境内
比蘭棚遺跡（ひらんだないせき）		302	2，200	長野県営住宅建替
史跡信濃国分寺跡（しせきしなのこくぶんじあと）		56	200	個人住宅建設
染屋台条里水田跡遺跡（そめやだいじょうりすいでんあといせき）		52	513	共同住宅建設
染屋台条里水田跡遺跡（そめやだいじょうりすいでんあといせき）		52	1，350	共同住宅建設
木の下遺跡（きのしたいせき）		98	1，319	共同住宅建設
竹の裏遺跡（たけのうらいせき）		276	-	耕作地整備

上田市文化財調査報告書第85集

市　内　遺　跡

平成12年度市内遺跡発掘調査報告書

発　行　平成13年 3月23日
発行者　上田市教育委員会
〒386-0025　長野県上田市天神二丁目 4番74号
印　刷　有限会社伸和印刷